

『アダム・スミス文庫』餘談

大河内 一 男

マダム・スミスの傳記を読んだ者は彼の三つの大いなる喜悅は「母」と「友人」と「書籍」とであつたことに氣付くであらう。彼は愛書家でもあり、また藏書家でもあつた。彼は約三千冊を藏してゐたと言はれる。ジェイムス・ボナーはその大半（約三分の二）の目錄を編纂して一八九四年出版したが（Jamer Bonar, Catalogue of the Library of Adam Smith, 1894）その中約三分の一がギリシヤ、ラテン、イタリヤ語の古典書、他の三分の一が佛蘭西書で、残りの三分の一が英書であつた。内容的に見れば、文學、藝術から哲學、自然科學、傳記、法律、政治、旅行記にまで及んで居り、經濟書は僅か全體の五分の一を占むるに過ぎないのは稍々意外である。神學書が殆ど缺けてゐるのはスミスの理神論的立場を想はせるし、また藏書の範圍が同じ位の比重で全般的であり經濟書に偏してゐないのは、當時は未だ今日の如く「専門の」經濟書が氾濫してゐなかつたためでもあらうが、また一般に當時の經濟學が廣範な思想體系《Moral Philosophy》の一部であるのが通例だつたと言ふ事情からも首肯出来る。ところで私は、此處でスミスの藏書に就ての解説をする積りは毛頭ない。ただ以上のことは我が國では比較的知れわたつてゐるが、右の三千冊のうちの約一割三百冊餘のものが外ならぬ我が經濟學部の研究室に所藏されてゐると言ふことに就ては餘り知られ

てないと言ふ點を述べて置き度いのである。「近世經濟學の父」アダム・スミスの藏書の一部が如何なる理由で本學部の研究室に「アダム・スミス文庫」として落付くに至つたかの経緯は、嘗て山崎覺次郎先生が本紙で語られたことがあつた。

ボナア教授の語るところに據れば、スミスの藏書は、彼の没後、彼の従兄弟に當るデイビット・ダグラス David Douglas 後年のレストン卿 Lord Reston (1769-1819) の手に移り、彼の没後、遺言によつて藏書は彼の二人の娘に頒ち與へられた。即ち一部分はカニングム夫人 Mrs. Cunningham の手に、他の一部はバナアマン夫人 Mrs. Bannerman の手に。かくて、スミスの藏書は二分されたが、バナアマン夫人の部分は、彼女の没後その息子の手に移り、更に轉じて一八八四年及び一八九四年二回に亘つて、エチンバラなるニュー・カレッジに寄贈され、其處に保管せられることとなつた。カニングム夫人の手に渡つた他の半分は更に複雑な運命を辿つた。夫人は夫君の没後、エチンバラにて右の藏書の一部を賣却した。その大部分は故ホヂスン教授 Prof. Hodgson によつて買ひとられ、彼の没後、ホヂスンの養子にして後任者たりし故ニコルスン教授 Prof. Nicholson の意見に基き、ホヂスン未亡人によつて大學圖書館に寄贈せられ、ニコルスン教授自身はまた、彼自身の所藏にかゝはるスミス藏書の一部(同様エチンバラにて購入せるもの)をばスミスの故郷なるカーロウディ Kirkcaldy 博物館に寄贈した。ところで我々の興味は當然カニングム夫人の手許に残されたスミス藏書の行衛に向けられる。この部分の藏書は彼女の手からその息子の手に、即ちベルファストのキャンクス・カレッジの教授にして著名な自然科學者なるカニングム氏 (Prof. R. O. Cunningham) の手に移つたが、彼はその一部を生前同大學に寄贈した。「一九一八年七月彼の逝去するや」とボナア教授はこの點に就て書き記してゐる。「スミスの藏書票の貼布されてゐる數多くの書籍と共に彼〔カニングム教授〕の藏書が競賣に附せられた。一九二〇年、三百冊近くのもの、が新渡戸教授によつて買ひとられ、東京帝國大學に送られた」

と。この點に就て、山崎覺次郎先生は大正十年の「經友」に、當時新渡部博士より先生に寄せられた書簡を發表されて居られるが、當時の「經友」を所持されてゐる人は極めて少數であらうから、此處に重ねて同誌から引用して置く度。

『拜啓益々御清穆之段奉賀候（中略）不圖數日前當市書肆 Dulau & Co. の目錄に依りアダム・スミスの藏書三百餘冊が賣物となり居るを承知致候、右は御承知の Honor O. "List of the Books in the Library of Adam Smith" 中に掲げられたる物の一部にて今日實際上の御參考にはならずとも經濟學者の寶物とも申すべきものと被存候に付右を新設經濟學部へ寄贈致度候、就ては本日右書肆より直接貴學部宛書籍入六箱發送爲致候間到着の上は何卒可然御取計ひ被成度候、實は拙者儀買入申込後可なり諸方面より希望出で殊に蘇國（スコットランド）の某大學より切なる希望も有之候へ共辛に拙者の手に落ち候故愈々日本の持物と相成り又帝大の一の誇とも相成候事は甚だ愉快に存候（下略）。』（山崎博士、「アダム・スミス遺愛の圖書」經友、第二號）

爾來三百部に及ぶアダム・スミスの藏書は「アダム・スミス文庫」として、經濟學部の研究室に秘藏せられてゐる。これは、同じく經濟學部に保藏せられてゐる古錢及び藩札の二大コレクションと共に、當學部の二大寶物と稱してもよろしいであらう。（この古錢及び藩札に就ては、山崎博士、「貨幣瑣話」を参照せられ度い）。けれどもアダム・スミスの藏書と東大經濟學部との關係はこれだけに止まらなかつた。話しはこれからである。上述ジュイムス・ボナアのスミス藏書目錄（初版一八九四年）には、東大に保管せられた三百部のうち一部分が記録漏れの状態であつた。このことは初版の藏書目錄と經濟學部所藏の「アダム・スミス文庫」とを對照することによつて直ちに判明した。その後スミスの所藏本は英吉利をはじめ各國に於て漸次その所在が判明してきたため、増訂の必要が生じた。其處で日本に渡つた三百冊を更に詳細に點檢する必要を生じ、ボナア教授はこの仕事をかねて昵懇の間柄であつた河合榮治郎教授

に托された。私が經濟學部を卒業してから（昭和四年）間もなく、私は教授から「アダム・スミス文庫」目録作成の仕事に更に委托され、タイトル・ページの読み難い文字に悩まされながら、それでもどうやら全部にわたつて、著者書名、発行年月、発行地及び書肆名等を整理した。今にして想へば驚くべき程粗雑であり缺陷の多いものであつたが、それにしてもこの仕事は相當辛い仕事であつたことに間違ひはない。ともかく、東京からのリストはボナア教授に送附され、他の追加分をも加へて、一九三二年『A Catalogue of the Library of Adam Smith』の第二版が出版された。その序文でボナア教授は次の如く述べてゐる――

「現在東京に在つてスミス藏書の保管の任に當つて居られる河合教授が親切にも三百冊の目録を提供して呉れたことは感謝に耐えない。……本目録にとつてのその意義は、従来目録に載つてゐなかつた約二十冊の藏書が記録されてゐる點である。ひとりの共通の英雄に對するかゝる熱意に於て、我々は最早やお互ひに異國人同志ではないのである。かくして、アダム・スミス文庫の日本の部分は安全な手に保管されてゐると言ふことに就て、我々は安心して可なりと言ふべきである。」

以上が東大經濟學部とアダム・スミスの藏書との關係の経緯の第二幕である。問題は更に一步進展する。河合教授の手を通じてボナア教授の手許に送られた東大「アダム・スミス文庫」の目録の中には、珍奇な一書が記録されてゐた。即ち、ボナア教授はその目録（新版）の附録第四に「日本のコレクション」と題し、次の如く注意してゐる。「河合教授によつて整へられたリスト中の全部は、カニンガム教授が所有してゐたスミス藏本の分だと言ふことが判明した。それは百三十二部三百冊に及んでゐる。大部分は一八九四年の目録（初版）に載つてゐるが、新たに二十冊が発見せられた。ところで二十冊の中には特殊な植打の一冊がある。即ち、アダム・スミスの編纂になる「アダム・スミス所藏本目録」一七六一年、一冊、がこれである。」Smith, Adam, ed. A Catalogue of books belonging to A.

S. 1716. I do!, へこの「特殊な値打の一冊」に就てボナア教授は次の如き批評を下して居る——「この目録は、ミス者身が書いたものにせよまた他人をして書かせたものにせよ、次の如き意義を持つ、即ち、彼がグラスゴウ大學の教授として「道徳情操論」を出版（一七五九年）して後、未だ經濟學の書物としては何も出版しなかつた當時に於ける彼の書庫に如何なるものが在つたかを示すであらう。恐らくわが日本の學友たちが、この點に關する我々の好奇心を満足させて呉れるであらう。」

ところで「日本の學友たち」がボナア教授のこの希望附きの評釋をそのまゝ無視してゐる間に、同じくミス研究家の權威の一人でグラスゴウ大學の「アダム・スミス講座」の擔任者スコット教授 Prof. W. R. Scott がこの問題を探り上げたのである。即ち同教授はボナア教授によつて指摘された右の「特殊な値打の一冊」たる A Catalogue of books belonging to A. S. 1761 の詳細な寫眞版を東大に依頼して來た。この度は經濟學部の河合教授と工學部の加茂正雄教授を通じてであつた。技術的な點はすべて加茂教授が指尊され、その他の點は當時の經濟部研究室主任を擔當せられてゐた田邊忠男教授と私とが當つた。菊倍版程度の大版の紙へ、細いペンで、花文字式の書體で書かれた書名のインクは殆ど褐色にうすれ、相當の技術的困難が豫想されたが、出來上つたのは見事な百三枚の寫眞であつた。一昨年（一九三七年）秋、スコット教授の大作「學生及び教授としてのアダム・スミス」が上梓され、直ちに我が學部も一部の惠送を受けた。これは學生時代を経てグラスゴウ大學の教授として活躍した頃までのスミスの前半生の詳細な考證的傳記である。この著作に上述の問題の著作目録が役立つことは言ふ迄もなく、この點は、スコット教授より河合教授への書簡がこれを物語つてゐる。ところで、物語りがこれだけで幕を閉ぢるのなら、それはとりたてて興味深い國際的話題とはならなかつたであらう。何故この肉筆の著作目録の寫しが注目すべき話題となつたかはスコット教授が右著作の中で次の如く述べてゐるのもつて之に代へ度い——

「……以上述べ来たところは一つの點を落してゐることに注意深い讀者は氣付かれたであらうと思ふ。即ち、それはボナア博士がその著アダム・スミス藏書目録、一九三二年版二一四頁に報告されてゐるところの『Catalogue of books belonging to A. S. in 1761』に就つてである。現在東京に在るこの文書は本研究にとつて極めて重要なものである。蓋しそれは、一七六一年當時スミスは重農主義派の誰かによつて書かれた書物を所有してゐたか否かを示すであらうからである。東京帝國大學の河合並びに田邊の兩教授、及び同大學の加茂教授の親切によつて、この文書の百三頁にわたる一枚一枚の寫眞が整へられることになつた。「寫眞から想像するに」ところどころインクがあせて居り(ボナア博士に送られた)日附けの讀み違ひ、即ち一七八一年を一七六一年と誤飯した原因が此處にあるらしく思はれる。……」(同書一七二頁參照)。

事實「一七六一年」と思はれたものは「一七八一年」であつた。東大よりボナア教授に送附された藏書目録(タイプライターによれる)の寫しが當學部に保存されてないため、「一七六一年」とボナア教授の書に記されるに至つた原因が何處にあつたかは不明であるが、それは恐らく東京側の誤讀であつたらうと考へられる。けれど此處では、この誤りの原因をさぐるよりは、百五十年前の、細いインクの文字が、消えかゝりながらも保存されてゐたと言ふ事實に感謝しやう。ただ、この文書が實は一七八一年に書かれたものだと言ふことによつて、その重要性の程度、あるひはスミス研究家の「好奇心」はある程度減殺されたかも知れない。一七六一年と一七八一年、この間の二十ヶ年の隔たりは、アダム・スミスの經濟思想の發展を辿る場合に極めて重要な意味を持つてゐる、すなはち、倫理學者として登場し、佛蘭西旅行によつて重農學派の人々と未だ接觸する前のスミスと、佛蘭西より歸京後「諸國民の富」を上梓し經濟學者としての王座を占めて後のスミスとの間に、經濟思想の成熟、又は他からの影響がどの程度に現はれてゐるかが、判明する筈である。従つて一七六一年の目録「これが事實あつたとすれば」は、かの「アダム・スミス問題」

の解決にこの上もない有力な資料となつたであらう。けれども今や一七六一年は誤讀で、肉筆の藏書目録は一七八一年のものだと言ふことは明かとなつた。この肉筆の文書は、國際的に暫時スミス研究家を騒がしたが、スコット教授の著書によつてそれは靜まり、研究室の書庫には例のカタログは何事も起らなかつたやうに、その薄い、大形な姿を横たへてゐる。新渡戸博士、ボナア教授、河合教授、加茂教授、スコット教授——これ等の人々の倦まざる學問的誠實さと國際的協力とによつて、アダム・スミス研究は更に一步前進した。東大所藏の藏書目録を繞る經緯は、ただその一挿話にすぎないのである。